

グリーン・ツーリズムに関する調査

平成18年3月

財団法人都市農山漁村交流活性化機構

I 調査の概要

1. 調査の目的

都市住民等の農山漁村体験生活やグリーン・ツーリズムに関する考えやニーズを把握するために、インターネットの双方向性を活用した「ニーズ調査」を実施し、その結果をGTポータルサイトに掲載するものである。

2. 調査対象

首都圏(一都三県)に居住する20才以上70才未満の男女個人

3. 標本数

1,276票

4. 調査方法

インターネット調査

5. 調査時期

平成18年3月

6. 調査項目

問1 「食育」の認知

問2 食の大切さを学ぶための体験の必要性

問3 食や農業の大切さを学ぶために必要な体験メニュー

問4 農山漁村への訪問意向

問5 農山漁村に行きたい理由

問6 健康増進を目的とした田舎体験旅行への意向

問7 農山漁村の資源を活用した健康増進方法への意向

問8 「グリーン・ツーリズム」の認知

問9 農林漁業体験意向

問10 農林漁業体験メニュー

(1) 体験したことがあるもの

(2) 今後体験したいもの

個人属性

F1 性別

F2 年代

F3 職業

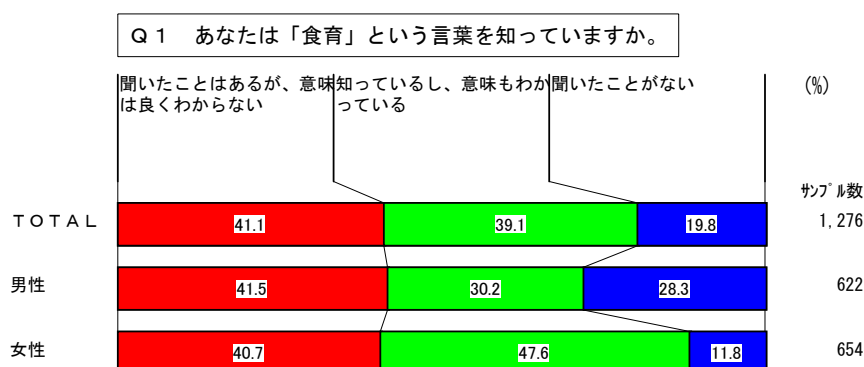
7. 調査結果について

調査結果については、集計分析を行いその結果をグリーン・ツーリズムポータルサイトに掲載する。また調査結果を本事業のニーズと位置づけ事業の実施方針等に活用する。

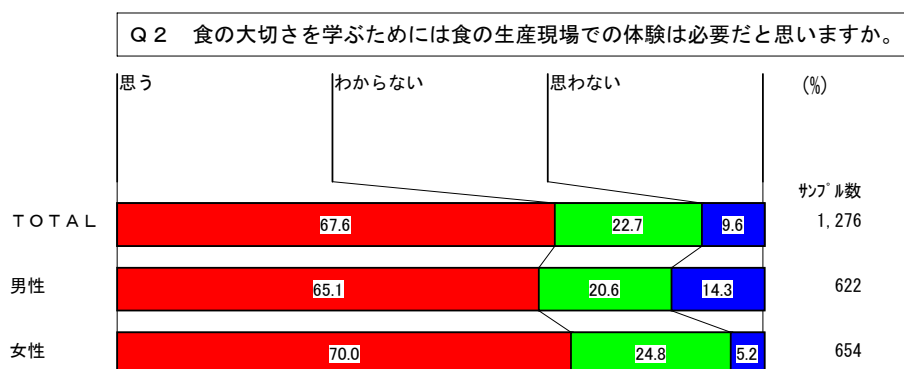
II 調査結果の概要

1. 調査内容の回答結果

(1) 「食育」という言葉の認識については、約8割の回答者が聞いたことがあり、あり関心の高さが伺われた。

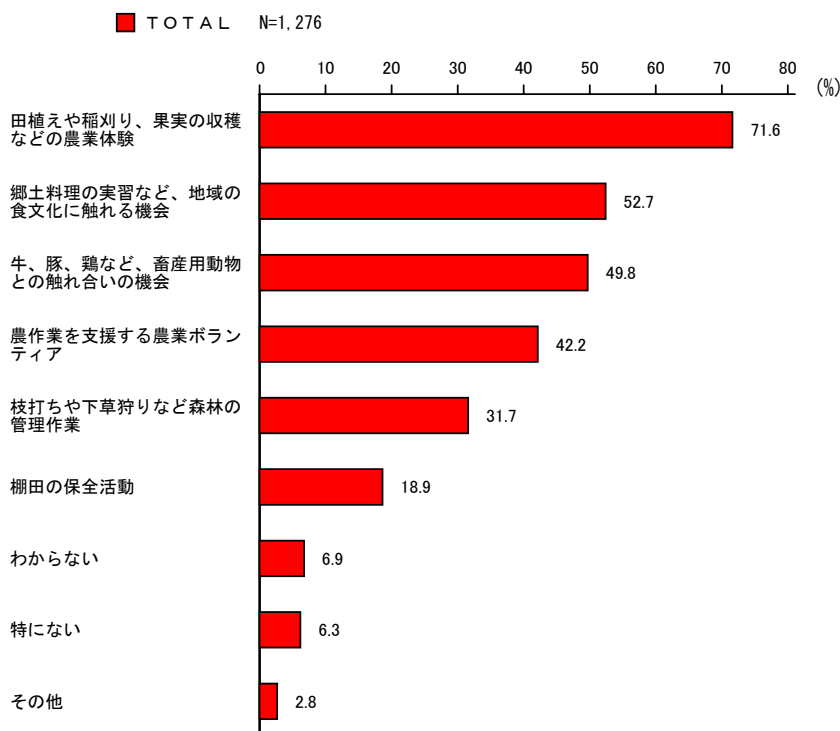


(2) 食の大切さを学ぶための体験の必要性については、約7割が必要性を感じているとの回答だった。



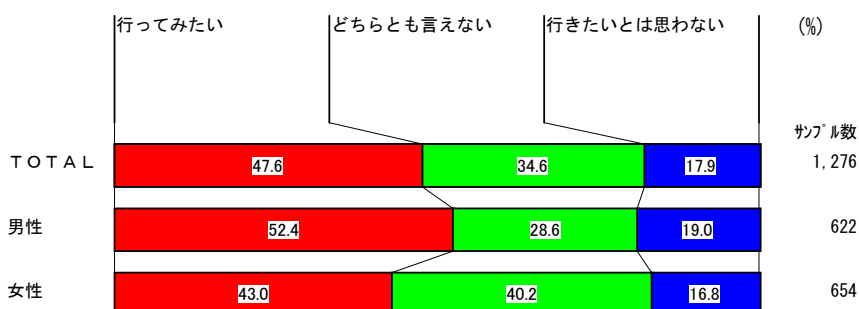
(3) 食や農業の大切さを学ぶために必要な体験メニューについては、田植え、稲刈り、果実の収穫や郷土料理の実習など食に関する体験への回答が高かった。

Q3 都市の住民が食や農業の大切さを学ぶためには、農山漁村でどんな体験メニューがあるといいと思いますか。

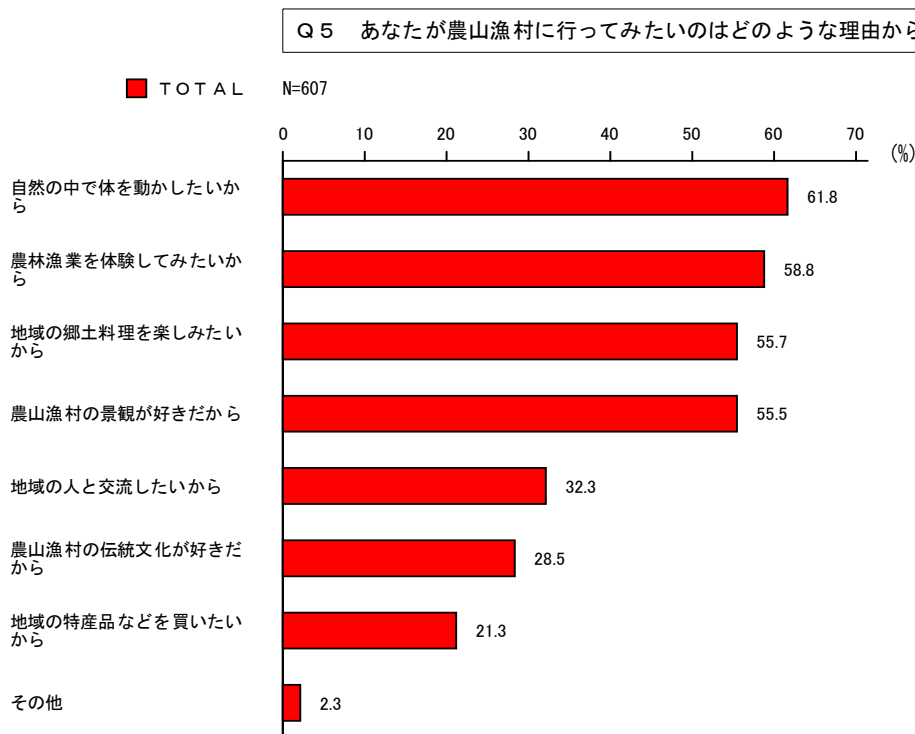


(4) 農山漁村への訪問意向については、約5割が行ってみたいとの回答であった。

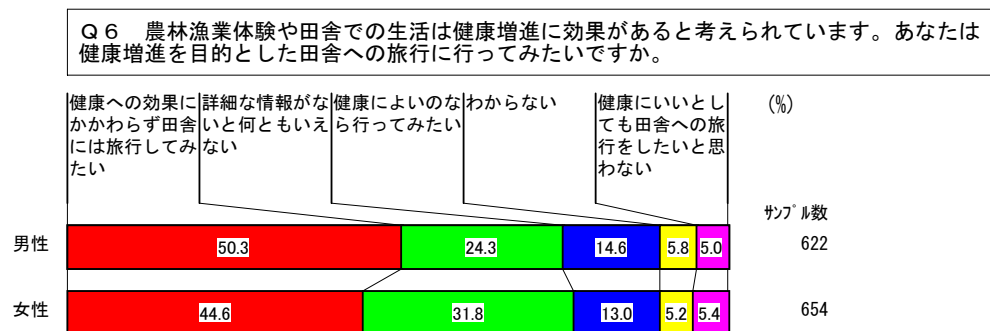
Q4 あなたは農山漁村に行ってみようですか。



(5) 農山漁村に行きたい理由については、自然に浸りたい、農林漁業体験、郷土料理、景観を眺めたいといった設問への選択が多かった。

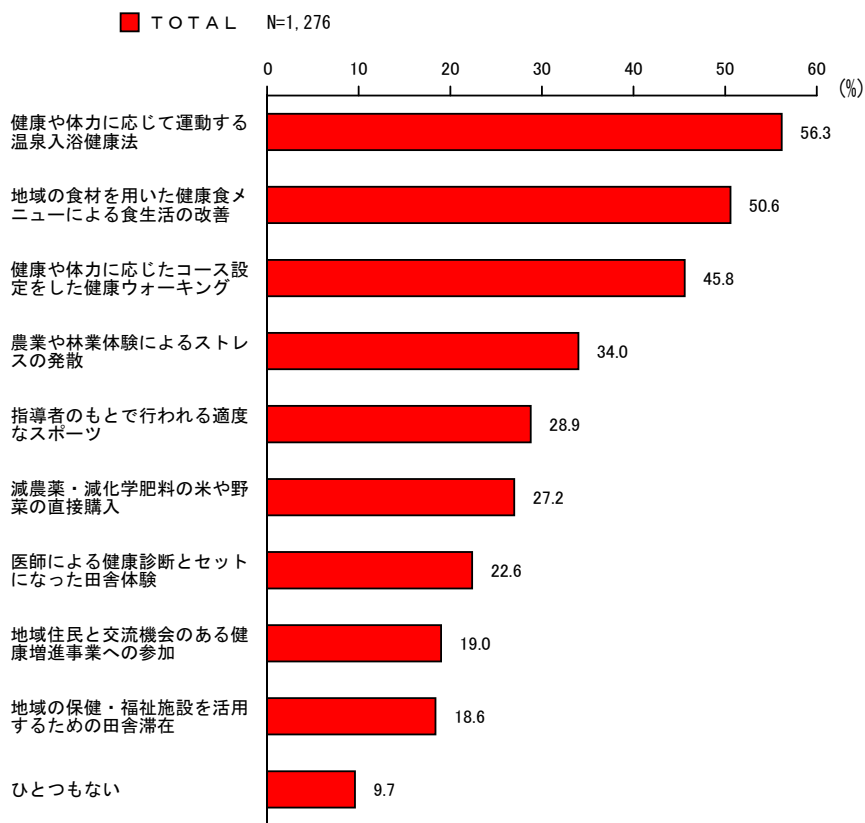


(6) 健康増進を目的とした田舎体験旅行への意向については、効果の有無にかかわらず行ってみたいとの回答が約5割近くあった。また詳細な情報がないと何ともいえないとの回答も約3割近くあり、関連情報の充実が望まれる。

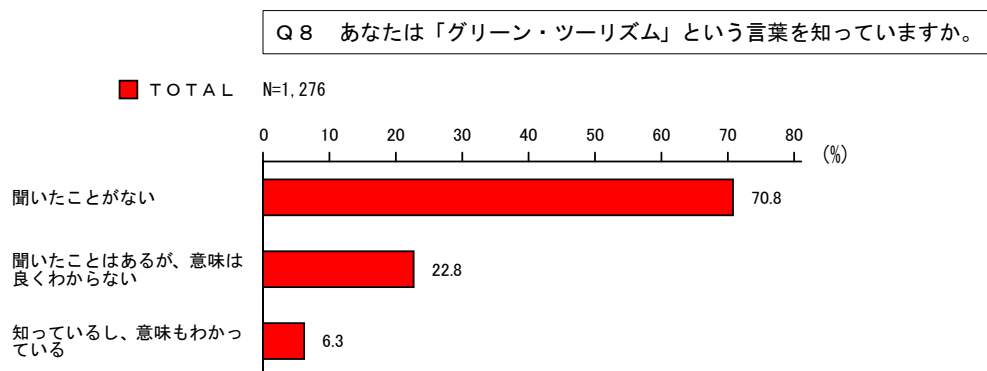


(7) 農山漁村の資源を活用した健康増進方法への意向については、温泉や郷土料理等の食を活用したプログラムに対する人気が高かった。

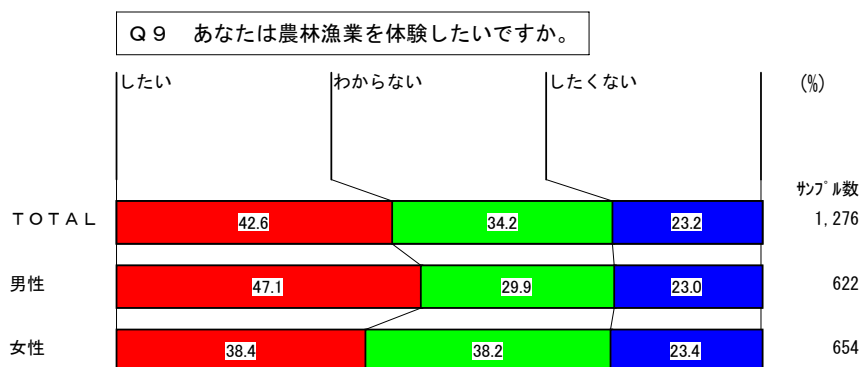
Q7 農山漁村の資源や環境を活用して健康を増進するために、次のような方法が検討されています。あなたがやってみたいと思うものをいくつでも選んでください。



(8) 「グリーン・ツーリズム」の認知については、約7割の回答者が聞いたことがないとの回答であった。

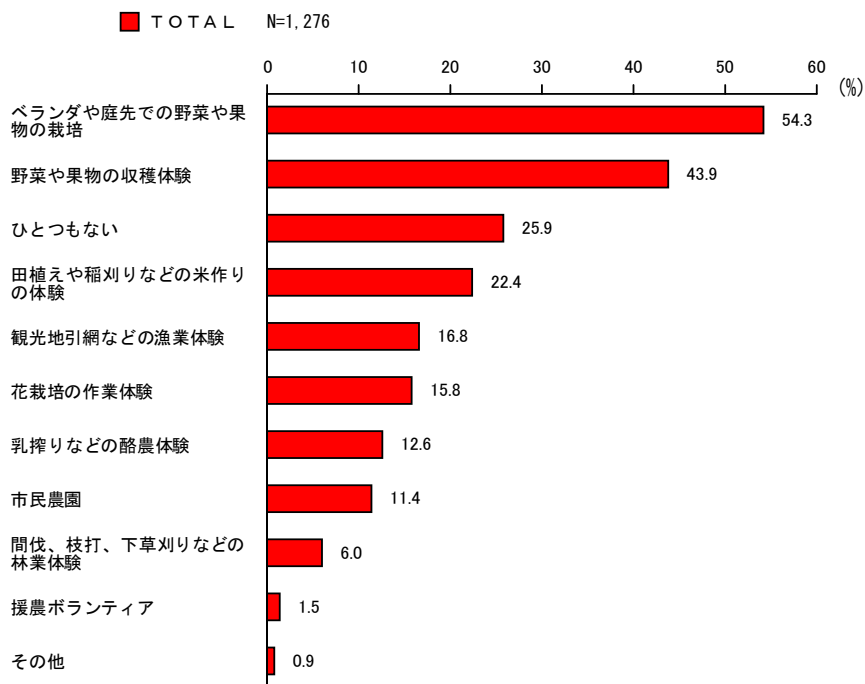


(9) 農林漁業体験の意向については、約4割が体験したいとの回答であったが、約3割がわからないとの回答をしており、農林漁業体験に対するわかりやすい普及啓蒙活動が必要である。



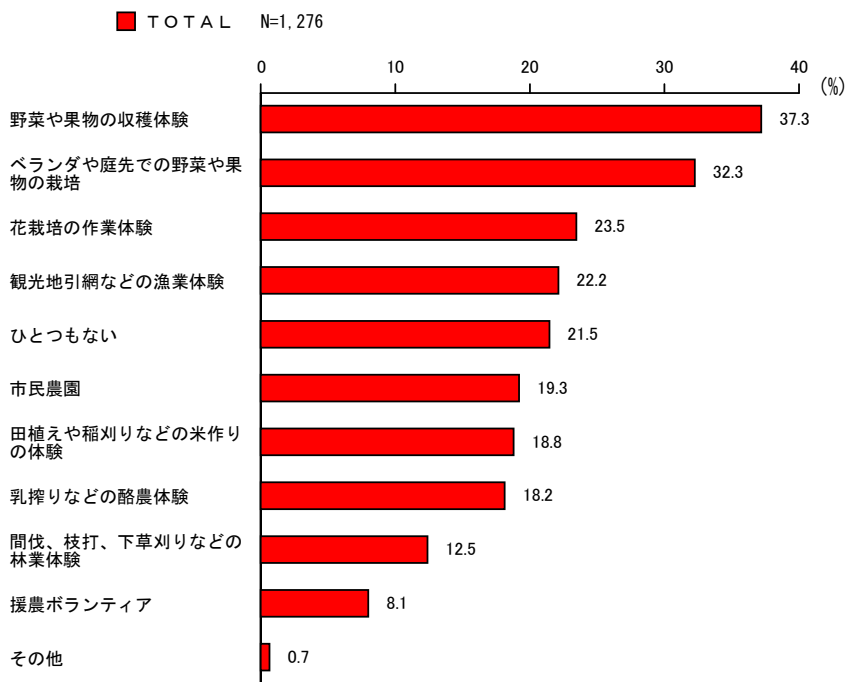
(10) - 1 農林漁業体験メニューで、体験したことがあるものについては、
野菜の栽培収穫に対する回答が多かった。

Q10-1 あなたは次にあげるような農林漁業体験をしたことがありますか。また、体験してみたいと思いますか。＜体験したことがあるもの＞



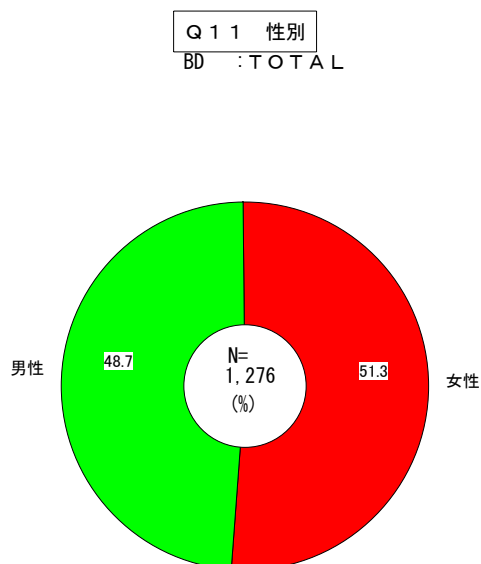
(10) - 2 農林漁業体験メニューで、今後体験したいものについては、野菜の栽培収穫に対する回答が多かった。

Q10-2 あなたは次にあげるような農林漁業体験をしたことがありますか。また、体験してみたいと思いますか。＜今後体験してみたいもの＞

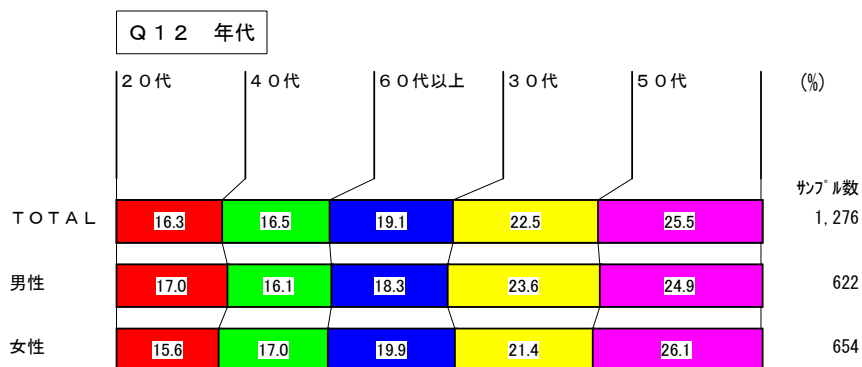


2. 回答者の属性

(11) 男女比については、5対5の比率となった。



(12) 年代については、20代～60代まで約2割ずつの構成で、バランスのとれたかたちとなった。



(13) 職業については、会社員と主婦が回答者の約半数を占めた。

